

# 北区自治協議会（第 8 期）を振り返って

北区自治協議会会長 神田 征男

## 1 はじめに

令和 3 年度からの第 8 期区自治協議会は、委員 30 名中、新メンバーを 14 名加えてのスタートとなりました。毎月一回住みよい北区のまちづくりに向けて話し合い、地域課題の解決に取り組んできました。

今期は、現行の区ビジョンまちづくり計画が令和 4 年度で終了するため、次期計画策定のために、令和 3 年度は「次期区ビジョンまちづくり計画策定 北区自治協議会 ワークショップ」を開催、令和 4 年度には、「次期区ビジョンまちづくり計画策定 特別部会」を設置し、今後の北区のまちづくりの方向性について話し合いました。北区のまちがより活性化されるためにできることを委員全員で考え、次期計画に反映することができ、区自治協議会委員としての役割も果たせたものと思っています。

部会でも地域の身近な課題を話し合っって事業を行い、地域課題解決に貢献できたのではないかと思います。

次期区ビジョンまちづくり計画施行の年となる令和 5 年度からの区自治協議会はどうあるべきか、その参考にさせていただきたく、第 8 期の活動成果や課題などについて報告します。

## 2 取組内容・成果・課題

### (1) 全体会について

#### ア with コロナ時代に合わせた会議運営

新型コロナウイルス感染症が日本に発生してから数年たち、当初はその対策に試行錯誤する日々が続いておりましたが、昨今では with コロナ時代として、現状に合わせたスタイルでイベントや会議等が開催されるようになりました。区自治協議会でも、3 年度までは書面開催なども行いながら運営しておりましたが、4 年度に入ってから、オンラインでの参加も何度か行い、時代に合わせたスタイルでの開催を試みはじめたところです。

with コロナ時代に合わせた手法での会議運営も視野に入れながら、柔軟に対応していくとともに、対面で深まる委員同士のコミュニケーションも大切に、持続可能な運営を行っていきたいと考えています。

## イ 次期区ビジョンまちづくり計画策定 北区自治協議会ワークショップ

令和3年11月25日に、区自治協議会委員23名が参加し、標記ワークショップを行いました。これまでの計画を振り返り、現状と課題を認識し、そこから得られた課題から今後の区の方向性を考えました。

区の将来像に到達するための目標として掲げた5つの「目指す区のすがた」ごとにグループを作り、事前学習をして話し合いました。

主な意見として、「自然環境保全のための情報共有・研究、担い手の育成と生きがいや喜びにつながる自治活動への支援が必要」、「大学生とコラボし商品開発を行いブランド力を高める」、「住民自身が情報を寄せるとともに必要な情報が集約されるような仕組みをつくる」、「高齢になっても安心して暮らせるような地域づくりを行政とともに行う」などがありました。出た意見を参考に、次期計画が検討されました。

## ウ 区自治協議会委員研修会の実施

令和3年度は、委員からの要望が多かった「防災」について、地域防災に詳しい新潟大学 卜部厚志教授を迎え、災害時に役立つ知識を学びました。それぞれの団体等に戻った際に役立つ研修会となりました。

令和4年度は、北区の歴史、施設の活用などについて理解を深めるため、閉校した小学校を改装して開館した新潟市文書館を見学しました。

## エ 区自治協議会提案事業実施方法の見直し

これまで区自治協議会では、1年単位で提案事業を実施していましたが、より充実した事業を展開するため、実施方法を見直しました。

1年目は、北区の現状や課題を把握するため調査・研究等を行い、その課題解決のために区自治協議会としての取組を考え、2年目に事業として行う、2か年での展開とします。これにより委員一人ひとりが自分事として課題を捉え、課題解決に向けての事業を効果的に実施できると考えています。

第9期区自治協議会から、委員任期の2年間でひと区切りとして、地域の課題解決の一助となる区自治協議会提案事業に取り組むこととしました。

## (2) 部会・提案事業について

### ア 総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどのようにすべきか検討を行いました。

## イ 地域づくり部会

地域づくり部会は、賑わいづくり、公共交通、地域産業、人口減少、空家活用、防災分野を所管する部会です。

令和3年度は、今まで防災に関心の薄かった若い世代を中心に、防災の基礎知識やコロナ禍における防災などの啓発を目的に、親子参加型事業「親子でわくわく！あそんでまなぼうさい！！in北区」を開催しました。

令和4年度は、令和3年度の実施事業を地域に発信し、希望のあった地域団体と連携して共催形式で2回実施しました。

## ウ 福祉教育部会

福祉教育部会は、子育て、教育、医療・保健、福祉分野を所管する部会です。

令和3年度は、誰かにかけていたい言葉、自分がかけてほしい言葉について考える機会を幅広い世代に提供することで、いじめや虐待の防止、引きこもり対策につなげるとともに、思いやり、支え合える関係づくり、地域づくりの大切さを広めることを目的に「『あったか言葉』っていいね」を実施しました。

令和4年度は、定年退職後の人や地域活動に興味があってもなかなか一歩を踏み出せない人が、活動をはじめられるように後押しすることを目的に「応援します、あなたの一歩」講座を開催しました。また、自分の体の状態を確認し、それぞれに合った筋力・バランスアップ運動などを学び、自身の体の健康について考える機会として、新潟医療福祉大学の知識を活用した「行ってみよう大学！あなたのための健康講座」を開催しました。

## エ 自然文化部会

自然文化部会は、文化・スポーツ、環境、空家対策分野を所管する部会です。

令和3年度は、北区の自然の魅力を見つめ直し、区内外へ広く魅力発信するために、福島潟の魅力PR動画の制作、「北区の魅力再発見！フォトコンテスト」を実施しました。

令和4年度は、前年度と同様の目的で、ビュー福島潟名誉館長の遠藤真理さんを招き、福島潟や北区の自然・文化の楽しみ方について意見交換する「遠藤真理さんと語る 福島潟のたのしみ潟（かた）」を開催しました。また、フォトコンテストも再度開催し、昨年度以上にカレンダー作成やSNS発信など魅力発信活動を積極的に行いました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

## 3 おわりに

今期は、「次期区ビジョンまちづくり計画」に関する少人数でのワークショップ

や特別部会において活発な議論ができました。一方全体会では、「区からの報告事項が多く、人数も多いため意見が出しにくい」、「全員が参加するための工夫が必要」などの声がありました。

新しい体制のもと、活発な議論が行われ、コロナ禍でも多様な手段で地域課題への取組を行いました。

協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。